

2022.05.26. 木曜礼拝 すべての国々が震える

エレミヤ書 9,10 章

JD ファラグ牧師

天のお父さま、本当に、本当にありがとうございます。主よ、私たちは木曜日の夜に集まって、共に礼拝と交わりをするこの時間をとても楽しみにしています。今、聖書を開きながら、主よ、私たちはただ、あなたに飢え、渴いています。私たちの飢え渴きを満たすことができるのは、あなたただだと知っています。主よ、特に今、本当に苦しんでいる人、傷ついている人、主よ、あなたの御言葉は、私たちが必要としている癒しの香油です。主よ、今夜、あなたの御言葉の中で、私たちが共に過ごす時間が励みとなり、祝福され、励まされ、強められた状態でここを去ることができますように、祈ります。

主よ、特に、ただ疲れたり、重荷を背負ったりしている人のために。主よ、私たちが重荷を負っているときにあなたのもとに来ることができ、あなたが私たちの魂を休ませてくださると仰いました。あなたのくびきは軽く、あなたの重荷は軽いからです。主よ、そのことに感謝します。このような夜に、あなたが与えてくださったこの美しい場所に集まり、共にこの時間を過ごすことができることを感謝します。主よ。あなたが今夜私たちのために用意して下さっていることを楽しみにしています。主よ、私たちに語り下さい。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

それでは。この2つの章を一緒に取り上げたかった理由のひとつは、7章から10章までが...、ここが重要なのですが、その理由を説明します。エレミヤは、エルサレムの神殿に入る門の前で公に預言し、自分たちに來る裁きを告げているのです。さて、なぜそれが重要かということ、日曜日の朝は、ヤコブ書を一節ずつ見えています。ヤコブ書は、手紙であり、いわば書簡であり、書かれたものです。私たちが今夜見ているものは、書かれたものではなく、むしろ語られたのです。神殿の入り口で、公に語られたものなのです。頭の中に大勢の人の姿を思い浮かべてほしいのです。もしよければ、皆さんの頭の中に、エレミヤという名の路上伝道師を思い浮かべていただければ、とても適切だと思います。エレミヤがそこにいて、立っていて...お立ち台は使いませんが...お立ち台、講壇なかったと思います。段のようなものでも、何でも、想像力を働かせてください。神はあなたに想像力を与えられました。思い出すのは...ずいぶん前のことです。1997年のことです。妻と私は、エジプトに向かう途中、イギリスにいました。ハイパークという場所があるんです。ハイパークには、もしかしたら聞いたことがあるかもしれませんが、スピーカーズ・コーナーというのがあります。ハイパークのスピーカーズ・コーナーには、演説者が集まっています。そして、何でもいいので、その上に立って話し始めるんです。ええ、ご想像の通り、私の妻は...実は、私をそこから出さなければならなかったのです。というのも、私は福音を伝えるために、何か立ち場を探していたのです。妻は、「そんなことしないで」と言いました。もちろん、ロンドンやイギリスにはたくさんのおイスラム教徒がいます。彼らはただそこに立って話しているんです。いろいろな人がいろいろなことを話しています。大勢の人が集まっている時もあれば、そうでない時もありました。聞こうと、何人かが集まって来ます。実際には...残酷で、というのも、罵声が飛び交っていたからです。特にクリスチャンに対して、罵声を浴びせたり、質問したりするんです。もちろん、そこには沢山、福音を語っているクリスチャンがいました。サタンは悪魔に取り憑かれた者たちを常に準備しており、混乱させ、邪魔し、気をそらせるのです。この貴重な伝道者がただ福音を伝えようとしているときに、あざける者、馬鹿にする者がいたのです。かなり細かい説明になってしまいましたが、これには理由があります。これがエレミヤがしていたことだからです。私たちは今夜2つの章を見ていきますが、手紙として見るのではなく、語ら

れた宣言と見るのです。それは、今夜ここで目にするものの様相を一変させることでしょうか。もう一步踏み込みます。手短に。神殿の入り口の門の前にいた大勢の人々を想像してみてください。罵声を浴びせた人たちもいたでしょうか。もちろんいたでしょう。嘲笑する人がいたのだらうかと考えます。もちろんいました。しかし、エレミヤはどうしたのか？ エレミヤはただ、メッセージをし続けたのです。彼はこの預言を語り続けました。言ってみれば不人気な預言を、です。これからわかるように、それは控えめな表現ですが。神が彼の口に置かれ、語らせられた言葉を、ただ説いたのです。エレミヤは、受け取られないと分かっている、実際にそうでした。しかしエレミヤは、忠実にそれを語ったのです。このように想像しながら、エレミヤは何かの台の上で、民に聞こえるように宣言し、これを語ったのです。これから見ていきますが、なんと、何人の人がエレミヤの傍を通り過ぎたのでしょうか？ こんな感じでしょうか。

「おい、ここから出て行けよ。ここで何してるんだ？ 勘弁してくれ。」友達とふざけながら、「あいつを見るよ。あいつの話聞いてみるよ。まさか。」まさかです。どういう意味か？ ええ、これは預言であり、預言的な類似性は、驚くほどであると同時にゾッとするほどです。具体的には、神の御怒りに震えるすべての国々についてです。取りかかる前に、もう一つ。この2つの章を読むとき、非難する心ではなく、涙の目を通して見るのが最も重要です。今見ていくように、エレミヤがしていることです。1節。

### エレミヤ9

1 ああ、わたしの頭が水となり、わたしの目が涙の泉となればよいのに。そうすれば、わたしは民の娘の殺された者のために昼も夜も嘆くことができる。

2 ああ、わたしが荒野に、隊商の宿を得ることができればよいのに。そうすれば、わたしは民を離れて去って行くことができる。彼らはみな姦淫する者、不信のともがらだからである。

エレミヤの心の傷と痛みが強さが伝わってきますね。メールで送るほうが簡単ですよね？ いえ、エレミヤはこれを語っているのです。涙ながらに語るのを、民は聞いているのです。実際、すごく泣いている印象があります。もう涙がなくなって、涙が枯れてしまったのです。涙の泉が涸れてしまった。あまりの痛み、どうにかして逃れたいと思い、どこか荒野でも、どこでも構わず、ただ、ここから遠く離れたい、この民から遠く離れたいと。とても辛いのです。そんな風を感じたことはありますか？ エレミヤがただ逃げ出したいと思ったように。3節。

3 彼らは弓をひくように、その舌を曲げる。真実ではなく、偽りが…

この描写を見てください、興味深いです。

…真実ではなく、偽りがこの地に強くなった。彼らは悪より悪に進み、…

あら、私たちのニュースフィードのようですね。そうではありませんか？

…彼らは悪より悪に進み、またわたしを知らない、主は言われる。

4 あなたがたはおのおの隣りに気をつけよ。どの兄弟をも信じてはならない。兄弟はみな、押しのける者であり、隣り人はみな、ののしって歩く者だからである。

5 人はみな、その隣り人を欺き、真実を言う者はない。…

この描写はどうですか？

…彼らは自分の舌に偽りを言うことを教え、…

待って、えっ？ ええ、彼らは自分の舌に教えていたのです。彼らは、自分の舌に何を教えてきたのでしょうか？ 自分の舌に偽りを言うことを教えていたのです。これはどうですか？

…悪を行い、疲れて悔い改めるいとまもなく、

つまり、悪を行うことによって、彼らは自分を疲れさせたのです。彼らは自ら疲れてしまったのです。悪を行うことに、とても疲れているのです。ほら、良い疲れ方ってあるじゃないですか。つまり、ただパンを裂き、ワインを注いで、あなたは疲れているのですが、しかしそれは良い疲れで、これは良い疲れではなかったのです。彼らは疲れ果てていて、悪を行うことに疲れていたのです。それは頑固で、意図的なものです。一日の終わりには、彼らはとても疲れているのです。なぜそんなに疲れているのか？ 悪を行うことで、疲れ果ててしまったのです。6節。

**6 しえたげに、しえたげを積み重ね、偽りに偽りを積み重ね、わたしを知ることを拒んでいると、主は言われる。**

繰り返しますが、これは意図的であることに注目してください。意志が固く、知らず知らずのうちに、欺瞞によって、拒否しているということです。拒絶です。「彼らは欺かれていますので、わたしを知ることを拒んでいる。」それが理由です。こんにちの時代を、何と的確に表現していることでしょうか。そう思いませんか？ だからこそ、悲しいことに、この世界は裁きの時を迎えているのです。7節。

**7 それゆえ万軍の主はこう言われる、「見よ、わたしは彼らを溶かし、試みる。このほか、わが民をどうすることができよう。**

**8 彼らの舌は殺す矢のようだ、それは偽りを言う。その口ではおのおの隣り人におだやかに語るが、その心では彼を待ち伏せる計りごとを立てる。**

**9 主は言われる、これらのことのために、わたしが彼らを罰しないだろうか。わたしがこのような民にあだを返さないだろうか。**

10節。これもまたエレミヤです。だからこそ、エレミヤがこれを書いているのではなく、話しているのだと理解することが大切なのです。エレミヤの言葉を聞いてください。

**10 山のために泣き叫び、野の牧場のために悲しめ。これらは荒れすたれて、通り過ぎる人もない。ここには牛、羊の鳴く声も聞えず、空の鳥も獣も皆逃げ去った。**

**11 わたしはエルサレムを荒塚とし、山犬の巣とする。またユダの町々を荒して、住む人もない所とする。」**

ここで、少し時間をとりましょう。これに関して少し時間をください。まず初めに、この2つの節に書かれていることは、私たちが毎日当たり前だと思っていることに気づいていますか？ 鳥、空の鳥の声、マイナバードではありません、...すみません。私がマイナバードをどう思っているかご存じですね？ きっと、天国には居ないと思います。不愉快でイライラしてしまうんです。鳩はどうでしょう？ 鳩の鳴き声、山々が、燃えつくされてしまったのです。美しい、青々とした緑と、荘厳な姿のコオラウ山脈。いつもそれを当たり前のことだと思っています。引っ越した当初、20年近く前の話ですが、今では、私のカイルアガールをカイルアに戻すなんて信じられないくらいです。トンネルを抜けるときに車の中で交わした会話を覚えています。トンネルから出ると、鮮やかな青緑色の海が広がり、息をのむような絶景が広がります。そして、あの山々を見ると、まさに息を呑むような美しさです。妻とのこんな会話を思い出します。「ハニー、これに感謝しなくなるなんて、絶対にしたくない。この島の、この風景の美しさを、決して当たり前と思いたくない。」朝、窓を開けて、コーヒーを飲みながら、デボーションの時間を持つことを。鳩の鳴き声が聞こえてきます。マイナバードがやって来るまでは。－（笑）－ これが最後の言及です。今は、別の問題があります、最近、野生の鶏が増えたと思いませんか？ 私だけかな？ 一体何でしょう？ とにかく、美しさが台無しになって... 聞こえてくるのは... とにかく、それは...とても癒され、心が落ち着き、平和で美しく、素晴らしいものを、当たり前のことに絶対にしたくないと、妻に話し

たときに思っていたのですが、案の定、ある日、鳥の声が聞こえなくなりました。ええ、鳥はそこにいるのですが、ただ私が、聞かなくなったのです。それから何度、トンネルを抜けても、目の前の海や、傍らの山の美しさに気がつかなかったことでしょう。まさに、当たり前のことと、思ってしまったのです。エレミヤはこれから起こることを預言的に垣間見たのだと理解しなければなりません。エレミヤはそれを預言し、宣言しているのです。そして、彼が公に、声を大にして、口頭で彼らに言っていることは、泣き、嘆くことなのです。なぜなら、これらすべてが起こり、焼き尽くされるからです。あなたが聞いているその音が、なくなるのです。鳥は、いなくなります。廃墟の山となってしまうのです。これをまた何度も言う事をお許しください。もう繰り返さないようにしますが、このことを十分に理解してほしいのです。エレミヤが語っている時、こんなことが起こっていました。神殿は満員で、立ち見席なんです。つまり、物事は進み、成長し、光り輝いていて、向こうには、このお先真っ暗な説教をする男がいます。それは一致しないのです。あなたのメッセージと現実の間に、かなりの隔りがあるようです。

「この神殿を見てよ！ 人々を見てよ！ 繁栄を見てよ！ ハハハ、一体何を言っているんだ？ 住人のいない荒れ果てた状態になるって？ 裸にされ、焼き尽くされ、空っぽにされる？ まさか。」

よし、気分が良くなりました。12節。分かりますか？ つまり、とてつもない繁栄の真っ只中、という感じでしょうか。ある人がこう言うのです。「これが、この先起こるのです。」理解するのはとても難しいことでしょう。言い訳ではなく、それを説明できると言えるでしょうか。12節に、3つの質問があります。1つ目。

#### エレミヤ9

12 知恵があって、これを悟ることのできる人はだれか。(2つ目) 主の口の言葉をうけて、それを示す人はだれか。(3つ目) この地が減ぼされて荒野のようになり、通り過ぎる人もなくなったのはどういうわけか。

答え：13節。

(これは興味深いです) 先祖の教えたようにバアルに従った。

それがきっかけで知ったというわけです。

13 主は言われる、「それは彼らの前にわたしが立てたおきてを彼らが捨てて、わたしの声に聞き従わず、そのとおりに歩かなかったからである。

14 彼らは強情に自分の心に従い、また、

15 それゆえ万軍の主、イスラエルの神はこう言われる、見よ、わたしはこの民に、にがよもぎを食べさせ、毒の水を飲ませ、

これは前にも出てきました。2回目です。16節。

16 彼らも、その先祖たちも知らなかった国びとのうちに彼らを散らし、また彼らを滅ぼし尽すまで、そのうしろに、つるぎをつかわす。」

17 万軍の主はこう言われる、「よく考えて、泣き女を呼べ。また人をつかわして巧みな女を招け。

18 彼らに急いでこさせ、われわれのために泣き悲しませて、われわれの目に涙をこぼさせ、まぶたから水をあふれさせよ。

これは、実際に、新約聖書にあるプロの嘆き手を指しているのです。実際にお金を払って、嘆きに来てもらっていたことをご存知でしたか？ 私にはお金を払えませんよ。特にその職には応募したくないと思います。しかし、彼らは実際に、お金を払ってもっと来てもらい、この嘆きの時に注目を集めるのです。

それを指しているのです。嘆いているのではなく、祝っているのです。考えておらず、パーティーをしているのです。だから、私が告別式をするときは、いつも『伝道者の書』、特に7章を読むことにしています。つまり、ソロモンが書いているのは、一見するとかなり病的なのですが、誤解しないならば、基本的にこう書いているのです。「結婚式に行くより、告別式に行く方が良い」これが理由です。なぜなら、告別式に行くと、より内面に向き合い、この世での人生の一時性を考える傾向があるからです。そして、誰もが直面する「死」という現実と、「永遠」という現実と、直面することになるのです。それを心に刻むのです。結婚式に行くと、そんなこと全く考えません。実際、結婚式でそんなことを言い出したら、その結婚式から追い出されるかもしれませんね。「告別式じゃないんだから。何を言ってるんだ？」それをエレミヤはここで言っているのです。そのことを、神はここでエレミヤに宣言させておられるのです。

**19 シオンから悲しみの声が聞える。それは言う、『ああ、われわれは滅ぼされ、いたく、はずかしめられている。われわれはその地を去り、彼らがわれわれのすみかをこわしたからだ』。**

**20 女たちよ、主の言葉を聞け。あなたがたの耳に、その口の言葉をいれよ。あなたがたの娘に悲しみの歌を教え、おのおのその隣りに哀悼の歌を教えよ。**

**21 死がわれわれの窓に上って来、われわれの邸宅の中にはいり、ちまたにいる子どもらを絶やし、広場にいる若い人たちを殺そうとしているからだ。**

**22 あなたはこう言いなさい、「主は言われる、『人の死体が糞土のように、野に倒れているようになり、また刈入れする人のうしろに残って、だれも集めることをしない束のようになる』」**

これは、収穫物を束ねて集め、取り込むという意味が込められています。そして体が...なんて生々しいんでしょう。人の死骸は、誰も集めようとしなければ、そのようになるのです。ごめんなさい、最後にもう一度だけ。エレミヤがこの神殿のメッセージを宣言しているところに自分がいることを想像してみてください。あなたはいつものように神殿にいて、家族と一緒にいます。この神殿に立ち寄って、屋台でシャワルマを買うのです。すると、エレミヤがこれを言っているのが聞こえます。食欲をちょっと損ねますね。そうでしょうか？ 23節。

**23 主はこう言われる、「知恵ある人はその知恵を誇ってはならない。力ある人はその力を誇ってはならない。富める者はその富を誇ってはならない。」**

24節に進む前に、23節で止まってください。つまり、知恵ある人はその知恵を誇り、力ある人はその力を誇り、富める人はその富を誇っていたのです。それが彼らのしていたことです。彼らは、すべての栄光を受けるべきお方以外のものを自慢し、誇っていたのです。24節。

**24 誇る者はこれを誇とせよ。すなわち、さとくあって、わたしを知っていること、わたしが主であって、このリストを見てください。**

**...地に、いつくしみと公平と正義を行っている者であることを知ることがそれである。わたしはこれらの事を喜ぶと、主は言われる。」**

「あなたがたは、これらすべてのことを誇っている。いいえ、止めなさい。それを誇る代わりに、わたしを誇りなさい。肉ある者は誰も、わたしの前で栄光を受けることは出来ないから。(Iコリント 1:29 参照)

あなたは富んでいるのですね。それを誇りとしているのか？ ああ、あなたは知恵があんですね。それを誇りとしているのか？ おお、あなたは偉大で強い。それを誇りとしているのか？ わたしが主であることを理解し、わたしを知ることが誇りとしなさい。」いつくしみ深いこと。あなたが最後に、神がどれ

ほど愛に満ちたお方で、どれほど親切な方であるかをほめたたえたのはいつでしたか。でも、なんだか場違いな気がしませんか？「いつくしみと公平と”正義（裁き）”…」さて、愛はどこに？ いいえ、それが愛なのです。どういうことか説明します。神は愛の神であられるので、裁かれるのです。神は義の神です。なぜなら、もし愛の神であられなかったら、義の神でもあられないからです。神が地上に正しい裁きと正義を行われないなら、それはなんと不当なことでしょう。黙示録に、ある場面が記されていますね。実に驚くべきことです。天のあえぎと呼びましょうか。

「巻物を開くのにふさわしい者はだれか？」（黙示録 5:2 参照）

「誰がこれを解決し、この過ちを正すにふさわしいか？」イエスはふさわしいのです。ああ、安心です！小羊がふさわしいのです！ おお…、「小羊の御怒り」どうです、このパラドックスは？ 最後に怒った小羊を見たのはいつだったでしょう。きっと獅子でしょう。でも、小羊？ 小羊の御怒り。愛はどこにあるのですか？ ーいいえ、これが愛です。神は私を愛しておられるからです。神が最終決定権を握っておられます。神が最終決定をされるのです。神が裁かれます。それは正しい裁きなのです。主を称えます。主よ、あなたはふさわしいのです。それが愛であり、優しさなのです。なぜなら、あなたが解決され、それを行うのにふさわしいお方だからです。そのために屠られた小羊がふさわしいからです。それは正しい裁きであり、正義なのです。「わたしはこれらの事を喜ぶと、主は言われる。」主が不義な者を裁くことを喜ばれているという印象を持ってはいけません。実際には、その逆が真実です。裁きを下すことを喜ばれません。主が喜ばれるのは、私たちが主に栄光を帰すことです。なぜなら、主は義であられ、愛であられ、優しくあられ、正しいお方だからです。25 節。

**25 主は言われる、「見よ、このような日が来る。その日には、割礼をうけても、…**

ユダヤ人はこんな感じだったのです。「やあ、私たちは神の民だ。ええ、彼らはね。私たちは受けたんだから、違うよ。さあ、神殿を見たか？ 何人来ているか見たか？ 繁栄を見たか？ 私たちは神の民なんだ。」いや、いや、いや、待って。

**…割礼をうけても、心に割礼をうけていない すべての人をわたしは罰する。**

**26 エジプト、ユダ、エドム、アンモンの人々、モアブ、および野にいて、髪の毛のすみずみをそる人々はそれである。…**

ちなみに、エジプト、エドム、アンモン、モアブ…これは現代のヨルダンと考えられます。片方はエジプト、もう片方はヨルダン、そしてちょうど真ん中にイスラエルがあります。興味深いです。近隣の国だけでなく、これらすべての国です。

**…これらの国びとはみな割礼をうけていない者であり、イスラエルの全家もみな心に割礼をうけていない者である。」**

言い換えると、外見は、いわば神の割礼を受けた民かもしれませんが、内面は、彼らと何ら変わらないのです。そのため、民は彼らと同じように裁かれることになります。10 章です。調子はどうですか？大丈夫ですか？ 私たち、かなりいい感じですね。時計は見ないで下さいね。まだです。1 節。

**エレミヤ 10**

**1 イスラエルの家よ、主のあなたがたに語られる言葉を聞け。**

**2 主はこう言われる、「異邦の人の道に習ってはならない。また異邦の人が天に現れるしるしを恐れても、あなたがたはそれを恐れてはならない。**

ここでエレミヤが言っていることがわかりますか？ 繰り返しますが、エレミヤはこれを公に宣言して

おり、彼らはエレミヤが何を指しているのか正確に知っていたでしょう。占星術です。これはバビロン人が行っていたことです。この最初の 2 節によると、イスラエルの家はバビロン人の方法、星座のしるしを学んでいたようです。それは、悪魔的な腐敗です。さて、3 節。酷くなっていきます。ご忍耐ください。

**3 異邦の民のならわしはむなしいからだ。彼らの崇拜するものは、林から切りだした木で、木工の手で、おのをもって造ったものだ。**

**4 人々は銀や金をもって、それを飾り、…**

♪オ～クリスマスツリー、オ～クリスマスツリー…♪ — (笑) — 何ですか？

…くぎと鎚をもって動かないようにそれをとめる。

**5 その偶像は、きゅうり畑のかかしのように、ものを言うことができない。歩くこともできないから、人に運んでもらわなければならない。…**

自分の神を運ばなければならないとなると、問題ですね。神が自分を運んでくれる代わりに。このことにまた戻ります。それは、この内容を理解する上で、重要な意味を持つことになるでしょう。というのは、「エレミヤ書 10 章に書かれているので、クリスチャンはクリスマスツリーを持つべきでない！」という人達が使う聖句だからです。「これは異教の風習だ」と。彼らはクリスマスツリー農場で、自分たちのクリスマスツリーを切り倒して持っていくのです。それを家に持ち帰って、クリスマスツリーの台に置いて、飾り付けをして、銀や金を取り付けて、それを崇拜するのです。待って下さいね。エレミヤ 10 章が 5 月で、12 月でなかったことが嬉しいです。

**…それを恐れるに及ばない。それは災をくらすことができず、また幸をくらす力もないからだ。」**

では、これについて話しましょう。すぐに解決して、次に行きましょう。「では、クリスマスツリーは絶対に持つべきでは無いということでしょうか？」いいえ。「えっと、ちょっと待ってください。これって、クリスマスツリーを表現しているようなものじゃないですか？」分かっています。あなたはクリスマスツリーを崇拜しますか？ あなたがクリスマスツリーを拝んでいるのなら話は別ですが。それについて話をする必要があります。それは違います。いや、ここではそういう話ではないんです。彼らは異教徒の神々にそれを行い、これらの木を神として崇拜し、木を取り囲む崇拜を行ったのです。そこには入り込みませんが、非常に、ただ酷かったと思います。言葉は悪いですが。

「では、なぜクリスチャンがクリスマスツリーを持ってもいいのでしょうか？」理由をお話しします。というのも、実は、あるコメンテーターの言葉が好きなのです。実はこの箇所からの、特にクリスチャンがクリスマスツリーを持つべきではないという比較よりも、クリスチャンはクリスマスツリーを受け入れるべきだという比較の方が、より多いのです。なので、我が家には、クリスマスツリーがあります。メールしないで下さいね。ツリー/木は十字架です。

「木にかけられる者はみな呪われる」(ガラテヤ 3:13 参照)

私のイエスは、私のために、私の罪の贖いのために、木にかかられました。ツリーに取り付けるライトは、イエスが世の光であることの象徴です。ツリーの下プレゼントはどうですか？ 一番好きなところですよね？ 特に自分が子どものころは。イエスが私のために、あの木の上で買い取ってくださった永遠の命の贈り物。あのツリーのプレゼントは、イエスが私のために支払ってくださったのです。それでは、メリークリスマス！ 悪気はないのですが、ある年のクリスマスの説教を思い出します。しばらく前の話です。タイトルは「あなたはまだ私たちのクリスマスを奪えない」だったと思います。携挙の後、それを好きなようにできますが、今はまだです。あなたはまだ、私たちのクリスマスを奪えません。また、

私たちの復活の日曜日のお祝いも奪えませんが、私たちがいなくなった後、好きなことをすればいい。しかし、今はまだです。では、皆さん大丈夫ですか？ 大丈夫ですね。メリークリスマス。それでは。6節。  
**6 主よ、あなたに並びうる者はありません。あなたはたいなる者であり、あなたの名もその力のためにたいなるものであります。**

**7 万国の王であるあなたを、恐れない者がいるでしょうか。あなたを恐れるのは当然のことです。万国のすべての知恵ある者のうちにも、その国々のうちにも、あなたに並びうる者はありません。**  
これが大好きです。これが大好きです。これが大好きです。

「主よ、誰かあなたに並ぶ者がいるでしょうか？ あなたのようなお方がいるでしょうか？ あなたのようなお方は、誰もいません。」繰り返しますが、エレミヤはこれを宣言しているのです。私は神が自分自身を誇られるのが大好きです。神にはお出来になるのです。神に並ぶ者は誰もいないから。8節。

8 彼らは皆、愚かで鈍く、…「鈍く」、後でここを見ていきます。もう少し詳しく説明します。私たちの日常ではあまり使わない言葉です。この考え方は、心が硬くなり、鈍くなり、関心を持たなくなることを意味します。そして、こう書かれています。

**…愚かで鈍く、偶像の教は、ただ木にすぎない。**

**9 銀ばくはタルシシから渡来し、金はウパズから携えてくる。これらは工人と金細工人の工作である。彼らの着物はすみれ色と紫色である。これらはみな巧みな細工人の作った物である。**

ところで、まだクリスマスツリーのことです。これを飾って、これだけの技術を投入しているわけです。これは安くはありません。すみれ色と紫色。すごいな…、彼らは本当にこのことに夢中なんですね。はい、そうです。しかし…、10節。この10節にあるような「しかし」を読むと、ここにあるすべてのものは、このためであることがわかりますね。神は今、何かを語ろうとされているのです。

**10 しかし主はまことの神である。生きた神であり、永遠の王である。(ここです) その怒りによって地は震うごき、万国はその憤りに当ることができない。**

この理由で、私はこれを注目し、強調したいのです。この箇所は、地球上のすべての国々に来る神の御怒りについて、私たち一人一人が立ち止まって考えるべきものです。毎週言っているようですが、エレミヤの時代と現代との預言的な類似性は、驚くほどであると同時に、ゾッとするほどです。ここで、現代のエレミヤがこう宣言しているのです。

「これがこの先起こることです。神の裁きは、7年間の患難時代の中で、地球上のすべての国々に下るのです。やって来るのです。あなたは確信が持てるのです。」そして、誰一人耳を傾けません。あまり変わっていませんね？ 彼らはただ、からかい、馬鹿にし、嘲り、笑い、通り過ぎるのです。しかし、これが重要です。それは起こるのです。今日、今夜の教えの準備をしながら考えていたんです。民が連れ去られたとき、生き残った人たちはどうだったのだろうかと思うのです。というのも、バビロンがユダを侵略し、ユダヤ人をバビロンに連れ去ったとき、多くの人々が殺されたからです。まさに、預言者エレミヤが宣言した通りに。バビロン人に連れ去られるとき、彼らは思い出したのだろうかと考えます。

「ちょっと待てよ…あの日のあの男を覚えているか？ 私たちはあいつを笑ったが、あいつは、このことが起こると言っていた。本当に起こったんだ。」いいですか、いえ、先走りました。11節。

**11 あなたがたは彼らに、こう言わなければならない、「天地を造らなかった神々は地の上、天の下から滅び去る」と。**

**12 主は”その力をもって地を造り、その知恵をもって世界を建て、その悟りをもって天をのべられた。**



”主は”を強調しました。旧約聖書全体を通して、イスラエルの民に繰り返し伝えられているのは「わたし”があなたの神、主であり、あなたをエジプトから救い出した者である。”わたし”が強調されています。

「あれはあなたの神ではない。それが天と地と海とそこにあるすべてのものを創造したのではない。わたしがしたのだ。”わたし”が、あなたの主である神だ。これらは神ではない。」

ここで再び出てきます。13 節。

**13 彼が声を出されると、天に多くの水のざわめきがあり、また地の果から霧を立ちあがらせられる。彼は雨のために、いなびかりをおこし、その倉から風を取り出される。**

この描写が好きです。14 節。

**14 すべての人は愚かで知恵がなく、すべての金細工人はその造った偶像のために恥をこうむる。その偶像は偽り物で、そのうちに息がないからだ。**

あ～...あなたが崇拝している神は、話せない。気づいていますよね？ あなたが作ったその像を神として崇め、ひれ伏しているが、それが神でないことを知っていますね？ あなたは知っている。そしてまた、ある人が愛情を込めて呼んでいた「Tender Commandments/優しい戒め」。「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。」「あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。」なぜこれらが「優しい戒め」なのか？ なぜなら、それは優しく、愛に満ちた天の父がこう言っておられるからです。像を作ることはできても、像があなたの味方となることはない。わたしはあなたの味方となる。それらにひれ伏し、拝してはならない。神々ではないからだ。わたしが神である。わたしの他に、神々があってはならない。わたしが神である。自分のために神を作ってはならない。その神はあなたの為に何もできないのだから。」15 節。

**15 これらは、むなしいもので、迷いのわざである。罰せられる時に滅びるものである。**

**16 ヤコブの分である彼はこのようなものではない。彼は万物の造り主だからである。イスラエルは彼の嗣業としての部族である。彼の名を万軍の主という。**

**17 囲みの中におる者よ、あなたの包を地から取り上げよ。**

**18 主がこう言われるからだ、「見よ、わたしはこのたび、この地に住む者を投げ捨てる。かつ彼らをせめなやまして、思い知らせる。」**

ここでエレミヤは、繰り返しますが、公に預言し、語っています。

**19 わたしはいたでをうけた、ああ、わざわいなるかな、わたしの傷は重い。しかしわたしは言った、「まことに、これは悩みである。わたしはこれを忍ばなければならない」と。**

お～...エレミヤのように、「これは私が耐えねばならない痛みだ」と言えるようになることを神に願います。ヨブのように、私たちが

「神が私を殺しても、なおも私は神に信頼する」と言えることを神に願います。(ヨブ記 13:15 参照) 私たちがエステルのように、

「死ななければならないのでしたら、死にます」と言えることを願います。(エステル 4:16 参照)

**20 わたしの天幕は破れ、綱はことごとく切れ、子どもたちはわたしを捨てて行って、いなくなった。もはやわたしの天幕を張る者はなく、幕を掛ける者もない。**

そして 21 節、これにはお付き合いください。

**21 牧者は愚かであって、主に問うことをしないからである。それゆえ彼らは栄えることもなく、その群**

れはみな散り去っている。繰り返しますが、どうかお付き合いください。なぜなら、これは牧者、羊飼、指導者、教師、神の群れの監督者について述べているからです。彼らもまた、心が鈍くなり、心が硬くなったのです。なぜそうなったのか、その理由まで垣間見ることができます。主を求めることを止めたのです。祈りの生活は存在しなくなりました。彼らはそうになっていったのです。もともと落ちぶれていたわけではありません。これが羊飼たちです。神は彼らを祝福し繁栄させられないばかりか、お出来になれないのです。神は望んでおられるのですが、お出来になれないのです。彼らの群れはどうですか？ 彼らはどうでしょう？ 養われていません。群れは散らされています。もしあなたが、どれだけの人が私たちにメールを送ったり、コメントをしたり、21節のようなほとんどそのままの文章を投稿してくるか、少しでも知っていたら。「私はもうこの教会には行けません。」聖書預言以前に、牧師は、御言葉を宣べ伝えないのです。牧師は前に出て...鈍くて...一度の説教で、何度「鈍い」という言葉が使われるのでしょうか。それは本当に退屈でした。それは、羊飼の心が鈍いからです。群れに何が起こるのか？ 散らされるのです。羊飼がいらないからです。これには心が痛みます。これは正直言って、私が牧師として扱っているものの中で最も心を痛めるものの一つです。私は忠実であると認められたいのです。主にこう言われたのです。「良くやった、良い忠実なしもべよ。入りなさい。」

なぜなら、私は羊飼として、牧師として、この神の群れの監督者としての責任を負わなければならないからです。そして、ここが私にとっての慰めです。散らされたすべての人にとって、イエスは良い羊飼いです。心の鈍い羊飼いたちがいても、イエスは良い羊飼いです。イエスはご自分の群れを非常に愛されています。このような心の鈍い羊飼いにもかかわらず、ご自分の羊の群れに食べ物を与え、世話をするようにされるのです。ペテロのことを考えます。イエスが復活されたときのペテロとの対話を持ち出すのは、適切だと思います。

「ペテロ、あなたはわたしを愛しますか？」3度です。

「はい、主よ...」(ヨハネ 21:15 - 17 参照)

ペテロは三度目に、涙を流します。イエスは仰います。

「わたしを愛するなら、わたしの羊を養いなさい。」

私は主を愛しています。とても。毎週、私の特権として、この説教壇の後ろに立ち、御言葉を教え、群れを養うとき、主が喜ばれ、祝福されていることを、私は知っています。主を愛しているからです。皆さんのことも愛しています。皆さんのことが好きでもあるんです。22節。

**22 聞けよ、うわさのあるのを。見よ、北の国から大いなる騒ぎが来る。(バビロンのことです) これはユダの町々を荒して山犬の巣とする。**

**23- 主よ、わたしは知っています、人の道は自身によるのではなく、歩む人が、その歩みを自分で決めることのできないことを。**

ああ、もう一度言いましょ。「歩む人が、その歩みを自分で決めることのできないことを。」自分自身に任せ、自分のやり方に従う。24節。

**24 主よ、わたしを懲らしてください。...**

う〜…危険な祈りですね。「私を懲らしめてください。」もしそれを主に求めたら、…「私を懲らしめ、しつけ、正してください。」主はそうなさいます。

…正しい道にしたがって、怒らずに懲らしてください。…それはまた別の説教になりますね。

**...怒らずに懲らしてください。さもないと、わたしは無に帰してしまうでしょう。**

神は難なく私たちが砕くことができるのに、神はそうなさいません。

### 25 人々にあなたの怒りを注いでください。…

これが好きです。聖なる満足です。「私ではなく、彼らに注いでください。私ではなくて。」

### 25 あなたを知らない国民と、あなたの名をとらえない人々にあなたの怒りを注いでください。…

これが理由です。

### …彼らはヤコブを食い尽しこれを食い尽して滅ぼし、そのすみかを荒したからです。

では、この章の終わりで何を言っているのでしょうか？ エレミヤは、要するに、主に憐れみを求めて祈り、懇願しているのです。「はい、分かっています。あなたは正しく裁かれます。当然そうです。しかし、あなたが私に宣言させるために与えられた預言は非常に悪く、彼らはユダを食い尽くし、焼き尽くし、荒れ果てさせ、さらに酷いことをします。そんなこと許さないでください。はい、あなたの御手の裁きの道具として、彼らを使われることは分かりました。しかし神よ、あなたは彼らが行おうとしているのかご存じですよ？ 積み重ね、度を越すのです。そして、あなたが許可されたことに大きな喜びを感じます。そうです、あなたがそうすることを、彼らに許されるのです。あなたの義において、あなたは正しい神でありますから、憐れんでください。ただ、私たちが憐れんでください。はい、私たちは裁きを受けるのにふさわしく、自分自身で招いたことです。それは実感しています。しかし、彼らは私たちが食い尽くすことを大いに喜びます。主よ、どうか憐れんでください。私たちが憐れんでください。」エレミヤは、こうしてメッセージを締めくくっているのです。今夜の聖書の学びも、こうして締めくくりにします。今、門の前にいる人たちを想像してください、「終わったか？わお…はあ…ああ、あれは酷かった。恐ろしい話だ。ひどい説教とメッセージと預言者だった。終わって嬉しいよ。」それはこんな感じで…

「あなたの説教で本当に祝福されたのは、説教が終わった時だよ。」ええ、終わった時に、本当に祝福されました。お立ちください。レイトウ、上がって来て下さい。この終わりで、皆さんを祝福したいのです。天のお父さま、ユーモアに感謝します。これは難しいことなので、軽快さが必要なのです。

主よ、あなたは憐み深いお方です。私たちはエレミヤのように、憐み深くいてくださるようにと懇願します。主よ、私たちはこの先に起こること、もう起こっていることを知っています。それは本当に、どう考えても、あなたの御言葉で知っていること、世界で見ていることに基づいています。私たちが思っている以上に、それは早くやって来ることを知っています。これは非常に深刻です。ですから主よ、どうか憐れんでください。あなたの義の裁きにおいて、憐み深くあってください。私たちが憐れんでください。

誰があなたを知っているでしょう？ 誰があなたの御名を呼んだのでしょうか？ 救われている私たちです。そうです、ラッパが鳴る前に、この杯から味わうかもしれません。しかし主よ、あなたはとても忠実で、私たちが乗り越えさせ、切り抜けさせてくださいます。携挙前に経験することがどんなに悪くても、それを乗り越えさせてくださいます。主よ。私たちがそれが起こると知っています。救われていることに感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7